

柔道整復学科 夜間部 基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																		
朝日医療専門学校広島校		平成20年3月11日	光井 富夫	〒733-0812 広島市西区己斐本町一丁目25番15号 (電話) 082-507-1212																		
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																		
学校法人朝日医療学園		平成3年3月25日	津島 伸章	〒700-0026 岡山県岡山市北区奉環町二丁目7番1号 (電話) 086-214-5522																		
分野	認定課程名	学科名		専門士	高度専門士																	
医療	医療専門課程	柔道整復学科		平成21年 文部科学省 告示第21号	-																	
学科の目的	学校教育法及び柔道整復師法に基づき、柔道整復師に関する知識・技能を教授し、保健・医療・福祉などの領域において、広く活躍できる人材を育成することを目的とする。																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技															
	3 年 夜	2405	1640	0	765	0	0															
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																
90		46	0	8	6	14																
学期制度	■前期 : 4月1日～9月30日 ■後期 : 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 優:80～100点、良:70～79点、可:60～69点、不可:～59点とし、優・良・可が合格点																	
長期休み	■夏期 : 8月中旬の約2週間 ■冬期 : 12月下旬～1月初旬の約10日間 ■春期 : 3月1日～3月31日までの1か月間			卒業・進級条件	■進級: 定期試験結果をもって判定会議で審議し、学校長が決定する。 ■卒業: 全ての科目の単位を修得し、判定会議で審議し、学校長が決定する。																	
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談、保護者との連携、成績不良者への補習等の実施			課外活動	■課外活動の種類 臨床研究部、柔道部、野球部、推拿ゼミ、美容鍼&フェイシャルトリートメントゼミ、トレーニングサークル等 ■サークル活動: 有																	
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 整形外科医院、デイサービス、介護施設、整骨院 ■就職指導内容 生活設計・マナー・履歴書の書き方等のセミナーの開催、就職希望調査票による個別指導の実施。			主な学修成果 (資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柔道整復師国家試験</td> <td>②</td> <td>23名</td> <td>20名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	柔道整復師国家試験	②	23名	20名										
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																			
柔道整復師国家試験	②	23名	20名																			
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成29年4月1日時点 在籍者 66名 平成30年3月31日時点 在籍者 64名 ■中途退学の主な理由 ・学業成績不振、学費負担等			■中退率 3%																		
	■中退防止・中退者支援のための取組 ・1年次からの補習や個別指導を行い学業成績不振による退学者0を目標に取り組んでいる。 ・担任制を取り、日頃から学生の身体・心の変化に注意を払っている。																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等での減免制度: 有 ・医療資格者サポート制度 : 入学金30万円免除、年間20万円の授業料の減免 ・Wライセンスサポート制度 : 受験料 2万5千円免除、入学金30万円免除、年間40万円の給付																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等からの第三者評価 : 無																					
当該学科のホームページURL	https://hrs.asahi.ac.jp/																					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

柔道整復師国家試験合格が当学科では重要であるのは当然であるが、卒業後即戦力となれるように、臨床の現場からの意見を充分に取り入れ教育課程を編成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会からの提言→ 教務委員会での方向性決定 → 柔道整復学科会議で教育課程の見直し・編成

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
宮迫 太一	公益社団法人広島県柔道整復師会	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	①
中村 崇弘	己斐なかむら接骨院	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	③
光井 富夫	本校 校長	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	
外山 日登志	本校 教務部次長	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	
相川 貴裕	本校 教務部課長	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	
山田 修平	本校 柔道整復学科学科長	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	
柿原 和之	本校 事務部課長	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 9月、3月で実施

(開催日時(実績))

平成30年度・第1回 平成30年9月16日(日) 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

本年度は設置基準の大幅な見直しによるカリキュラム再編を行った1年目で、教育課程編成委員会から頂戴したご意見を蓄積すると同時に、カリキュラム変更を伴わないご意見については教務委員会・柔道整復学科で検討し、随時講義に反映していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教科書的な整復・固定技術にとらわれる事なく、より実践的で安全な方法を臨床家の先生から学び、資格取得後に即戦力となれるような内容を教授頂く。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教員資格を有する企業等の職員と講師契約を締結し、実習・演習等の科目担当者としてシラバスの作成、授業の実施、定期試験の実施により学生の学修成果について評価する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
柔道整復実技Ⅰ	主に外傷の固定で、基礎から臨床に及ぶ実技	よこがわ接骨院
応用柔道整復実技Ⅰ	主に外傷に対する処置(整復・固定)に関して、一連の流れに沿った、より臨床に近い形で行う実技	長岡接骨院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員一人ひとりが、学校の教育方針・教育目標を十分に理解し、それぞれの専門性を最大限に発揮できるよう、様々な機会を通じて研修を受講し、自己研鑽に励み、必要な知識・技術を修得し、実践的な指導力の向上を図る。「教育職員研修規程」に基づき、企業等と連携し、計画的に研修を受講している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 研修名 「第42回中国学術大会鳥取学会」(連携企業: 広島県柔道整復師会) 平成29年6月11日 対象: 柔道整復師
- 研修名 「平成29年度第1回学術主催研修会」(連携企業: 広島県柔道整復師会) 平成29年8月27日 対象: 柔道整復師
- 研修名 「第26回日本柔道整復接骨医学会学術大会」(連携企業: 日本柔道整復接骨医学会)
平成29年11月3日～4日 対象: 柔道整復師

② 指導力の修得・向上のための研修等

- 研修名 「第59回教員研修会」(連携企業: 全国柔道整復学校協会) 平成29年8月19日～20日 対象: 柔道整復専科教員

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

- 研修名 「第42回中国学術大会鳥根学会」(連携企業: 広島県柔道整復師会) 平成30年6月10日 対象: 柔道整復師
- 研修名 「平成30年度第1回学術主催研修会」(連携企業: 広島県柔道整復師会) 平成29年7月1日 対象: 柔道整復師
- 研修名 「第27回日本柔道整復接骨医学会学術大会」(連携企業: 日本柔道整復接骨医学会)
平成30年11月17日～18日 対象: 柔道整復師

② 指導力の修得・向上のための研修等

- 研修名 「第60回教員研修会」(連携企業: 全国柔道整復学校協会) 平成29年8月18日～19日 対象: 柔道整復専科教員

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校における自己点検・自己評価活動の客観性・公平性を担保するため、学校関係者による評価を行い、教育活動その他の学校運営の改善に活用する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、目標、育成人材像
(2) 学校運営	運営方針、運営組織、情報管理
(3) 教育活動	目標設定、カリキュラム編成、成績評価、単位認定、資格取得の指導体制
(4) 学修成果	資格取得率、就職率、退学率、学生の社会的活動
(5) 学生支援	就職・進学支援、健康管理、学生生活・相談、保護者との連携、卒業生支援
(6) 教育環境	施設・設備等、学外実習等、防災・安全対策
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算、収支計画、会計監査、情報公開
(9) 法令等の遵守	個人情報保護、学校評価
(10) 社会貢献・地域貢献	社会・地域貢献、生涯学習、ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己点検・自己評価委員会により、学生アンケート及び学校評価アンケートを実施し、自己評価
→結果を受けて「学校関係者評価委員会」にて第三者評価
→「学校関係者評価」の結果を受けて自己点検・自己評価内容の見直し

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
宮迫 太一	公益社団法人広島県柔道整復師会	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	企業等
中村 崇弘	己斐なかむら接骨院	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	卒業生
盛岡 政行樹	盛岡鍼灸接骨院	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	保護者
竹内 健治	元岡山県立津山東高等学校	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	校長経験者
光井 富夫	朝日医療専門学校広島校	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	校長
外山 日登志	朝日医療専門学校広島校	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	教務部次長
柿原 和之	朝日医療専門学校広島校	平成30年4月1日 ～平成31年3月31日(1年)	事務部課長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者との連携及び協力の推進の為に、本校の教育活動・学校運営状況・授業アンケート・学校評価アンケートの結果を資料として提供し、共有化を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	沿革、教育理念および人材育成像、教育目標
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、成績評価、国家試験対策、国家試験合格率
(3) 教職員	研修制度、教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職指導、就職セミナー、卒後サポート
(5) 様々な教育活動・教育環境	単位互換制度、学校行事、課外活動、図書室、自習室
(6) 学生の生活支援	クラス担任制

(7) 学生納付金・修学支援	奨学金、学費サポートプラン、学費減免制度
(8) 学校の財務	財務情報
(9) 学校評価	自己点検・自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3) 情報提供方法 ホームページ	

授業科目等の概要

(医療専門課程柔道整復学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人文科学	医学を知るための国語を学習する	1後	40	2	○			○			○	
○			社会科学	現実の経済行動や経済現象を理解するために、経済学の基礎的部分とそれにココロを統合した行動経済学の基礎的部分を学習する。	1前	40	2	○			○				○
○			自然科学Ⅰ	身体の仕組みについて学ぶことにより、正常な身体の機能と障がい者の身体の機能や障がい者スポーツに対しての知識、理解を深める	1前	40	2	○			○				○
○			自然科学Ⅱ	人間の身体（特に筋骨格系の構造と機能）に関する知識、理解を深める	1前	80	4	○			○			○	
○			自然科学Ⅲ	スポーツや健康に対する基本的な知識の習得と、評価技術を習得すること、を目的とする。	1通	80	4	○			○			○	
○			解剖学	人体を構成する様々な細胞、組織、器官、臓器がどのように協調しながら、1つの個体を形作っているのかを学ぶ	1通	160	8	○			○			○	
○			生理学Ⅰ	柔道整復師として必要な生理学の基礎知識の習得及び国家試験に合格できる学力を身に付ける	1後	40	2	○			○			○	
○			基礎柔道整復学Ⅰ	柔道整復の歴史を学ぶとともに、現在における柔道整復師の果たすべき役割、業務範囲などを理解する。また、各組織の損傷の特徴、評価方法、治療法の基礎を理解する	1通	80	4	○			○			○	
○			柔道整復実技Ⅰ	基礎的な固定法から、臨床に用いる方法までを学ぶ	1通	80	2			○	○				○
○			柔道整復実技Ⅱ	教科書で学ぶ上肢の運動器の解剖学を、模型や人体を用いて触察し、3Dとして理解する	1通	80	2			○	○			○	
○			柔道整復実技Ⅲ	教科書で学ぶ下肢の運動器の解剖学を、模型や人体を用いて触察し、3Dとして理解する	1後	80	2			○	○			○	
○			生理学Ⅱ	柔道整復師として必要な生理学の基礎知識の習得及び国家試験に合格できる学力を身に付ける	2通	80	4	○			○			○	
○			運動学	人間の身体運動について運動連鎖や単関節の動きの知識を習得し、実際の動きの考え方に活用していけるようにする	2前	60	3	○			○			○	
○			病理学	人体の疾病に関する一般的事項及び各病変の概要について理解し、これを施術に応用する能力と態度を身に付ける	2通	60	3	○			○			○	
○			外科学概論	具体的な外科的疾患の理解と基礎的科学思考力を身に付ける	2前	40	2	○			○				○
○			関係法規	柔道整復師法を中心に、関係する法規を理解させるとともに、資格取得後の法令順守について学ぶ	2後	20	1	○			○			○	
○			保健体育Ⅰ	柔道着の着方・礼法・基本姿勢、組み方・歩き方・体さばき・受け身・打ち込み・投げの形（手技、腰技、足技）約束稽古柔道の基礎をしっかり学び怪我をしないよう形をおこなえるようになる。	2通	80	2			○	○				○
○			基礎柔道整復学Ⅱ	上肢の脱臼・軟部組織損傷・骨折の各論を学び、国家試験レベル及び後期から始まる実技に対応できる知識を身に付ける	2前	100	5	○			○			○	

○		基礎柔道整復学Ⅲ	柔道整復師の適応であるか否かの判断能力を身につけていくこと。また、後療・リハビリ現場では柔道整復師が施術にあたることもあるため、そこでの注意点などについて学ぶ	2前	80	4	○		○	○								
○		柔道整復実技Ⅳ	1年次に学習した高齢者の特性や機能訓練についての知識を生かし、高齢者に対する対応方法や高齢者特有の運動方法・注意点、介助方法を身につける。また、各部位における基礎的な運動療法の知識・技術を修得する	2後	80	2			○	○	○							
○		応用柔道整復実技Ⅰ	骨折、脱臼の評価法の実技（シミュレーション）を通し、外傷の捉え方、整復法、固定法の基礎を学ぶことで、他の外傷への応用ができるようになることを目的とする。また、認定実技審査も視野に入れ幅広い実技を行う	2後	80	2			○	○	○							
○		応用柔道整復実技Ⅱ	下肢・体幹の治療法を学ぶ。 1. テスト法 2. 整復法 3. 固定法	2後	80	2			○	○	○							
○		臨床実習	①柔道整復療養費の取り扱いとその処理方法 ②OSCE（客観的臨床能力試験） ③コミュニケーション能力、適切な施術録の書き方等の臨床能力	2後	45	1			○	○	○							
○		一般臨床医学	診察の基本的事項と内科疾患を中心に学ぶ。柔道整復師が臨床現場で注意を払わなければならない症状・所見の理解を深めるとともに、国家試験に合格できる学力を身に付けることを目的とする。	3前	100	5	○			○	○							
○		整形外科学	1) 運動器の基礎知識 2) 整形外科診察法 3) 整形外科検査法 4) 整形外科治療法 5) 整形外科疾患の病態・診断・治療 整形外科疾患の診断・治療法を学ぶ	3前	60	3	○			○	○							
○		リハビリテーション医学	リハビリテーション医療の評価、治療を概観し、リハビリテーションの対象疾患について、病態、障害、リハビリテーションの方法を講義する。広くリハビリテーションの意味を理解し、柔道整復師として地域医療や地域発展に貢献するための基本的な知識と態度の獲得を目標とする	3前	60	3	○			○	○							○
○		衛生学・公衆衛生学	保健・医療・福祉等の基礎知識を習得し、国家試験に合格できる学力を身に付けること及び柔道整復師がチーム医療の一員として地域医療に貢献できるようにすることを目的とする	3前	60	3	○			○	○							
○		保健体育Ⅱ	礼法、受け身、打ち込み、乱取、投げの形(手技、腰技、足技) 柔道認定実技審査の合格をめざす	3通	40	1				○	○							○
○		臨床柔道整復学Ⅰ	臨床応用に必要な要点を再学習し、臨床並びに国家試験に対応できる能力を身につける	3後	40	2	○			○	○							○
○		臨床柔道整復学Ⅱ	臨床において柔道整復術をおこなうにあたり、最低限必要である人体の生理機能を学ぶとともに、施術や業務に活かせるように理解を深める。	3後	80	4	○			○	○							○
○		臨床柔道整復学Ⅲ	身体の機能に関して更なる理解を深め、臨床に活かす	3通	80	4	○			○	○							○
○		臨床柔道整復学Ⅳ	柔道整復学的な所見に加え、医科学的な所見から臨床における疾患の評価、鑑別の方法を学ぶ	3後	80	4	○			○	○							○
○		臨床柔道整復学Ⅴ	骨折・脱臼・軟部組織損傷の基礎を復習しながら、臨床でよく遭遇する外傷をより深く理解する事を目的とする	3後	80	4	○			○	○							○

○		応用柔道整復 実技Ⅲ	柔道整復の臨床現場において遭遇する主な外傷 (骨折・脱臼・軟部組織損傷)に対応できる能 力(初検・整復・処置)を身につける	3通	120	3			○	○			○	○
合計				34科目		2405単位時間(101 単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(卒業要件) 全単位取得	(履修方法) 全科目必修	1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	20 週